

2024年2月20日

公益財団法人イオン環境財団

「ユネスコエコパークフェア」を開催

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役 会長 以下当財団）は、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークと、2月24日（土）、25日（日）にイオンモール八幡東にて「ユネスコエコパークフェア」を開催します。

当財団は、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指すユネスコエコパークの理念に賛同し、2017年に、日本各地のユネスコエコパークが組織する日本ユネスコエコパークネットワークと、連携協定を締結しました。両者はこれを機に、植樹をはじめとした環境教育や啓発活動などを協力して取り組んでまいりました。

今回は、イオンモール八幡東において、ポスターやパネル展示を行い、両者の取り組みを紹介するほか、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの豊かな自然と共存した人々の暮らしをわかりやすくお伝えするために、クイズラリーや、同パーク内の自然資源を利用したネイチャークラフト体験などを実施します。

両者は、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も連携して様々な活動に取り組んでまいります。

【概要】

- ・開催日時 2024年2月24日（土）10：00～18：00
25日（日）10：00～16：00
- ・開催場所 イオンモール八幡東 1F ひまわりの広場
- ・主催 公益財団法人イオン環境財団
- ・共催 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進（大分・宮崎県）協議会
- ・内容
 - ・ネイチャークラフト体験
（どんぐりクラフト、冬の植物踏み踏み体験など）
 - ・展示コーナー
 - ・ユネスコエコパークなどに関するクイズラリー
 - ・パッケラフト体験
 - ・VR体験

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、１９９０年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに万里の長城での植樹をはじめとする「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の４つの事業活動を中心に環境活動に取り組み、現在、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹の累計本数は、１９９１年より約１,２６５万本（２０２３年１１月末現在）となります。

【ユネスコエコパーク】

生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserves）は“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目的として、１９７６年にユネスコが開始しました。国内ではBRを「ユネスコエコパーク」と呼ぶことが、２０１０年１月の日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されています。認定地域数は、１３４カ国７３８地域、うち国内は１０地域となっています。

（２０２３年１月時点）

ユネスコエコパークには「生物多様性の保全」「学術的研究支援」「経済と社会の発展」の３つの機能があり、その機能を果たすために、以下の３つの地域が設定されています。

核心地域：厳格に保護され、長期的に保全される地域。

緩衝地域：核心地域保護のための緩衝的地域。教育や研修、エコツーリズム等に利用。

移行地域：人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域。

【祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク】

大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系とその周辺地域は、独特な景観美を有する特有の地形地質によって、多様かつ貴重な生態系が発達しています。また、この豊かな自然を人々が敬い、守り、その恵みを上手に活用しながら暮らしてきた地域です。

標高が高く原生的な天然林が多く残された祖母・傾・大崩山系では、山の高さに応じ、暖温帯から冷温帯までの幅広い植生を見ることができます。また、特別天然記念物のニホンカモシカや、日本列島の成り立ちを表すとされる

「ソハヤキ要素」の植物など、限られた地域に

しか生育・生息しない希少な動植物が数多く存在する貴重な地域です、これら希少な動植物は絶滅の危険性にさらされており、分布地域の環境を大切に守っていくことが必要とされています。



祖母山

構成市町村：大分県 佐伯市、竹田市、豊後大野市、宮崎県 延岡市、高千穂町、日之影町
＜ホームページ <https://sobokatamuki-br-council.org/>>